元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉　2026年08月03日　第1278「週刊五十嵐レポート」

沈むな日本車

7月14日から3日間、日経新聞で「沈むな日本車」を特集記事があった。

「中国車は日本車に追いつけない」。日本メーカー幹部が口をそろえた2010年代は今や昔。中国勢はクルマをデジタル製品ととらえ、日本勢の成功体験の「すり合わせ」とは異なるクルマづくりを確立。

中国勢は開発にもAIを積極的に取り入れ3交代24時間体制で進める。開発スピードは従来の日本車の2倍。EV電池やレアアース(希土類)を含め、官民挙げてつくり上げた新たなサプライチェーン(供給網)が安さと速さを支える。

米調査会社によると、中国メーカーの世界市場での販売シェアは25年に25%と、10年間で倍増。一方、日本勢は4ポイント減の26%に低下、逆転が迫る。

自動車産業の競争軸が完全に変わった。「ものづくり」から「システムづくり」へ。日本車はエンジン・変速機・燃費・品質・故障しない、これが勝負だった。EVになると、モーター・バッテリー・ソフトウェア・AIが価値になった。「機械工学」から「情報工学」へ。中国は車メーカーではなくIT企業が車を作っている。

なぜ中国は早いのか。日本は、設計→設計変更→部品会社→試作→評価→会議→修正。中国は、AI設計→即シミュレーション→即試作→OTA更新。更に24時間開発、AI、ロボット工場、巨大サプライチェーンらが一体化。日本が1年かかるものを半年で出せる。(OTA:Over-The-Air(オーバー・ジ・エア)の略。「インターネットを通じて車のソフトウェアを更新する技術」)

日本は終わったのか。日本の最大の武器は「ストック」。トヨタは世界で約1.5億台。ホンダは6000万台以上。日産は6000万台以上。この数字は中国企業には真似できない。スマホでいうとAppleのiPhoneが20億台あるからサービスで儲かるという話。自動車は20年使われる。中国は今年100万台売った。日本は20年前から世界中で売っている。毎年の販売台数(フロー)ではなく、現在走っている車(ストック)が巨大資産になる。

これからは、車を売る→毎月課金→AI更新→自動運転追加→保険→金融→動画→ゲーム→音楽→診断→アップグレード。車が20年間利益を生む。何が一番大事かわかりますか。最終ユーザーのデータ。ここを押さえる。

ちょっと気になる出来事

7月30日付日経新聞、「日本人1億2000万人割れ」という記事。総務省は住民基本台帳に基づく1月1日時点の人口動態調査を発表。国内の日本人人口は1億1973万6483人で、1984年以来42年ぶりに1億2千万人を下回った。一方、外国人は全都道府県で増え、400万人を超えた。

日本の人口構造・労働市場・地域社会・教育制度が大きな転換点に入ったことを示している。外国人は「補助的な労働力」ではなく、日本経済を「支える基盤」になった。

数字を見ると、外国人：約403万人（総人口の3.3%）15～64歳が86.2%最も多い年代は25～29歳つまり、日本人が減少している働き盛りの年代を外国人が補っているということ。日本人は17年連続で人口減少、生産年齢人口は30年以上減少している。

日本経済＝外国人労働者がいないと成り立たない段階に入ったと言える。

今後は「人数」より「定着」が課題になる。2027年から始まる育成就労制度は非常に重要。日本はこれまでの「外国人を受け入れる国」から「外国人と一緒に社会をつくる国」へ移行し始めている。

一口メモ知識

成果をあげるための5つの能力

成果をあげるための実践的な能力は５つある。

第一に、何に自分の時間が取られているかを知り、残されたわずかな時間を体系的に管理する。

第二に、外部の世界に対しる貢献に合わせる。

第三に、強みを中心に据える。

第四に、優先順位を決定し、優れた仕事が際立った成果をあげる領域に力を集中する。

第五に、成果をあげるよう意思決定を行う。

（「経営者の条件」より）

ドラッカー名言集　仕事の哲学　（ダイヤモンド社）より

●「戦略社長塾東京」小岩校　毎週日曜日・水曜日　午前10時～12時
●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校　開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス　〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703　Fax03-3659-7077　info@igarashireport.com